

股関節の痛みを生じる病気

✓ 変形性股関節症

関節の軟骨が磨り減り、関節が変形してスムーズな動きができなくなり痛みを生じる。

元々の股関節は正常で加齢に伴ってすり減りが生じる場合は一次性股関節症といいますが、

高齢化社会と活動性の高まりにより、一次性股関節症の患者さんが増えています。

✓ 発育性股関節形成不全（先天性股関節脱臼）

生まれつき赤ちゃんの股関節が脱臼していることは比較的稀です。弛みのある赤ちゃんの

股関節が、不適切な育児習慣で外れてしまうことが多いと考えられます。オムツやダッコの

仕方を注意し、乳児脱臼検診などで早期診断と治療を受けることで頻度は少なくなっています。

✓ 臼蓋形成不全

大腿骨頭を包み込んでいる骨盤側である「臼蓋」の大きさが不十分で、大腿骨頭を十分に

包み込めていない状態です。日本人では成人男性の0-2%、女性の2-7%が股関節の形

成不全があるとされており、大人の臼蓋形成不全は前期股関節症にあたります。乳児期の

股関節形成不全との因果関係はまだはっきりしていません。

✓ 大腿骨頭壊死

大腿骨骨頭のなかに血液の通わない部分ができしまい、血液の通わない場所の骨が壊死

状態となることがあります。壊死の範囲が狭かったり、発症初期には症状が出ませんが、壊死の部位が骨折すると急な股関節痛と歩行障害を生じます。原因不明のこともありますが、男性ではアルコール多飲、女性ではステロイド剤の使用に関連して生じることが多いことが分かっています。

✓ 大腿骨頸部骨折

比較的高齢の方に起きやすい骨折。転倒などをきっかけに大腿骨頸部を骨折した際、骨折の程度が著しい場合は大腿骨頭の血流障害が生じるため、大腿骨頭壊死と同じような状況になり得ます。

✓ 関節リウマチ

関節リウマチやその類似疾患によって関節炎や関節破壊が生じた場合、変形性股関節症と同じような状況になることがあります

✓ 股関節インピンジメント（大腿骨寛骨臼インピンジメント、FAI）

大腿骨や寛骨臼に骨形態異常があり、動作時にインピンジ（衝突）することで股関節痛を生じることがあります。変形性股関節症の一因と考えられ、スポーツ障害としても注目されています。

変形性股関節症の進行度と症状

前期：関節はまだ正常ですが、炎症が起きて違和感や痛みを感じます

初期：関節の軟骨が傷つき、関節が少し狭くなる時期で、違和感や軽い痛みを感じます



進行期：関節の軟骨が磨り減って摩耗し、関節のすき間が狭くなります。

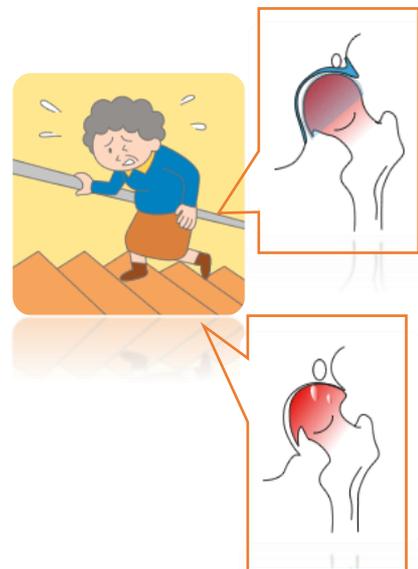
レントゲンでは骨嚢胞（骨の中穴が空くこと）と骨棘（骨のトゲ）なども現れます。痛みが悪化して慢性化し、歩行にも支障が

でます

末期：股関節の軟骨がほぼ消失して関節のすき間がなくなります。

レントゲンでは進行期よりも著しい変形が認められます。痛みや動きの制限だけでなく、筋力が落ちて脚が細くなったり、左右の脚の

長さに違いが認められたりします



股関節のレントゲン

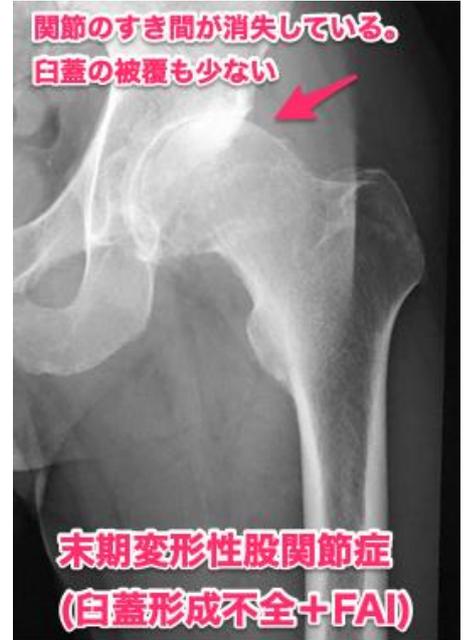
丸い骨頭が十分骨頭にお
おわれ、関節のすき間
(軟骨)も保たれている



骨頭は軽度亜脱臼
関節のすき間が消失
骨棘(骨のトゲ)、シスト
(骨の孔)がある



関節のすき間が消失している。
臼蓋の被覆も少ない



骨頭内の弱くなった部分が
少し潰れている



骨折してズれている

